津市立八ツ山小学校だより

この学校にわたしたち

2023. 12. 4　　N046

くすりとリスク

　随分前に、私は医者から処方された薬を服用した直後、気分が悪くなってきたことがあります。

　認可されている薬であってもくすりがリスクとなることがあります。かつて努めていた学校の職員室の全面の壁に「その一言が人を傷つけ、その一言がひとを励まし、その一言が…」と毛筆で書かれた掲示物が貼られていました。いつ、誰が書いたのか不明でしたが、これを書かれた方は「教室でも職員室でも、あるいは家に帰ってもこのことを忘れてはいけないよ」ということを伝えたかったのではないかと思います。“ことばはくすりにもなるがリスクにもなる”とは医師の稲葉　俊郎さんの言葉です。まさにこの掲示してあった内容は稲葉さんの言っていることと同じです。

　以前、私の隣のクラスを担任していた同僚が「クラスの子どもたちがだんだん自分と同じ口調になってきたんさな」と言っていたことを思い出します。このようなことは他にも何人もの同僚から聞いたことがあります。私も我が子が自分と同じ言葉を使っていてハッとさせられたことがありました。子どもたちは親や教師が使う言葉をよい言葉、傷つける言葉、馬鹿にする言葉も無意識のうちにすべて心に刻み込んでいき、やがて使うようになります。以前、ある学校で１年生の子が別の子に対して「あなたは何度言ったらわかるの。ちゃんとしなさい。」と言っているのを聞いてドキッとしたことがあります。「〇〇ちゃん、すごいわね。よく頑張っているね。」「～してくれて助かったよ。」などプラスの言葉（ストロークとも言います）に多く触れている子どもは一般的に他の友だちに対しても穏やかにそしてポジティブに関わることができると言われています。私たちは教師であるとかないとかを別にして「その一言が人を…」を心に刻み、自分がどんな言葉を使っているかあらためて見直していかなければならないと思います。

にこキラ集会にご参加有難うございました

　25 日（土）のにこキラ集会（人権学習発表会）へのご参加有難うございました。子どもたちがどの子もいじめや差別がなく、安心して学校生活を送ることの学級・学校づくりをしていくことは学校教育の根幹となる部分です。また、長い目で見た時の人格形成という点からもとても重要な部分となります。当日は、各学年が4月から今まで学習してきた内容を一生懸命練習しながら、発表させていただきました。当然、発表がゴールではありませんので、教科学習とともに心の教育もあらゆる場面で取り組んでまいりますので宜しくお願いします。アンケート等でご意見をお聞かせいただけますと幸いです。